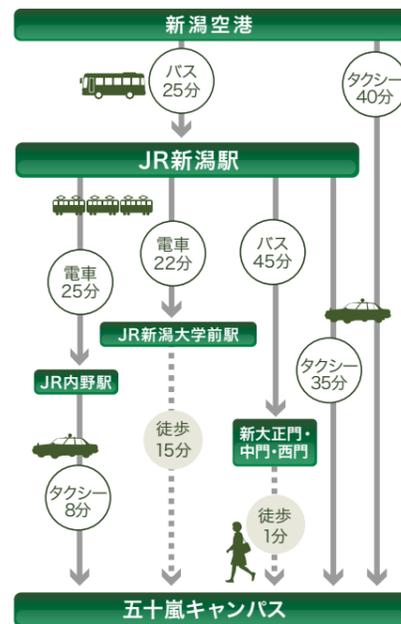


## 新潟大学農学部へのアクセス



### 新潟空港から新潟駅まで

約30分毎にバスが出ています。

### 新潟駅から新潟大学 五十嵐キャンパスまで

■鉄道利用1(タクシーを利用しない場合)  
JR越後線にて新潟駅 → 新潟大学前駅下車(約22分)  
新潟大学前駅 → 新潟大学正門(徒歩約15分)

■鉄道利用2(タクシーを利用する場合)  
JR越後線にて新潟駅 → 内野駅下車(約25分)  
内野駅 → 新潟大学正門(タクシー約8分)

■タクシー利用  
新潟駅 → 新潟大学正門(約35分)

■バス利用(新潟交通「新潟大学行き(経由)」乗車)  
1. 新潟駅 → 新大正門、新大中門 下車(約45分)  
2. 万代シティバスセンター → 新大正門、新大中門 下車(約40分)  
3. 古町周辺 → 新大正門、新大中門 下車(約35分)

### 新潟駅近郊案内図



### キャンパス内案内図



〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

●学務係

TEL (025)-262-6605

E-mail nougaku@agr.niigata-u.ac.jp



Faculty of Agriculture  
Niigata University 2026

# 新潟大学農学部

2026年度 学部案内



● 応用生命科学プログラム  
Applied Life Science Program

● 食品科学プログラム  
Food Science Program

● 生物資源科学プログラム  
Program of Agriculture and Bioresources

● 流域環境学プログラム  
Program of Environmental Science for Agriculture and Forestry

● フィールド科学人材育成プログラム  
Program of Field Research in the Environmental Sciences



## 学部長あいさつ

農学は「生命」・「食料」・「環境」を支える総合科学です。

農学は、農林水産業の基盤としての学問であるのはもちろんですが、人類社会に深く関わる「生命」・「食料」・「環境」を支える総合科学としても重要です。今日、人類が直面している人口、食料、環境、エネルギー等に関わる諸問題は、総合科学としての農学分野が中心となって取り組むべき課題と言えます。その際には、理学、工学、医学、社会科学等のあらゆる分野との連携・融合も必要になってきます。農学は今、最も注目を集める学問分野の一つと言っても過言ではありません。

新潟大学農学部は、「食料生産と環境保全に関する幅広い基礎学力と総合的応用力を備え、我が国のみならず世界で活躍できる、創造性豊かで広い視野を持った人材の育成」を教育目標として、地域、国内および国際社会で活躍する多くの農学系人材を送り出してきました。本学部は、これまでの教育研究の豊富な実績を踏まえつつ、地域と社会が求める多様なニーズに柔軟に対応できるように、2017年4月から1学科5プログラムの新たな体制で教育研究をスタートさせました。新たな体制では、新潟の代表的な産業である食品分野の教育研究と人材育成を強化するとともに、理学部との学部横断型プログラムを新設する等、農学分野の教育研究の柱である「生命」・「食料」・「環境」の教育研究をさらに充実させました。具体的には、農林畜産物の生産・加工・流通、生命現象の解明に基づく最新のバイオテクノロジー、生物機能の開発と応用、食品の機能性や新たな加工技術、地域および地球環境の理解と保全、野生動植物の生態と保護等に関する幅広い、そして先端的・実践的な教育研究を展開しています。

新潟大学農学部の卒業生の就職率は毎年高く、就職を希望する学生のほとんどが就職できている状況にあります。また、本学部は国際交流やグローバル人材の育成にも力を入れています。アジア諸国はもちろんのこと、遠くロシアやトルコ等からも留学生を受け入れるとともに、それらの国々の協定校への学生派遣も行っています。その際には、学生支援機構の奨学金等の支援制度を活用し、留学を希望する学生が少ない自己負担で海外へ派遣されています。

新潟は佐渡島を含め、山から平野、そして海に至る豊かな自然環境に恵まれており、多様な動植物を見ることができます。また、コシヒカリに代表される美味しいお米や、さまざまな農産物を産出する日本有数の食料生産地帯であり、1,000社を超える食品関連産業が集積する我が国有数の「食づくり」地域です。米どころ新潟を支えるための分水路や排水機場等、大規模な治水工事の成果も目にするすることができます。また、新潟は雪崩や地滑りの多発地帯であり、その防災・減災技術も進んでいます。このような農学を学ぶ上で恵まれた環境にあることを生かし、新潟大学農学部は、総合科学である農学の諸分野の基礎から応用に至る幅広い教育研究、新潟の地域性を生かした特色ある、そして先端的な教育研究を推進し、毎年多くの有為な人材を輩出しています。



新潟大学 農学部長  
西海 理之

農学部は、21世紀における「持続的な農業の発展と環境の保全」を目指し、総合的な教育研究を弾力的に推進・発展させるため、以下のような目標を掲げています。

1. 生物生産産業の発展、自然環境との共生に向けて、最新のバイオテクノロジーや情報科学等の科学技術を導入しつつ、多様化する社会の要請に柔軟に対応し得る教育・研究体制の確立
2. 地域農業の生産性の向上や農林業を基幹とした農山村の振興等に貢献する教育研究
3. 国際的な視野を持ち基礎科学と応用技術を活用できる人材の養成
4. 学際的な研究の活性化および地域貢献型プロジェクト研究の推進

## 新潟から世界へ

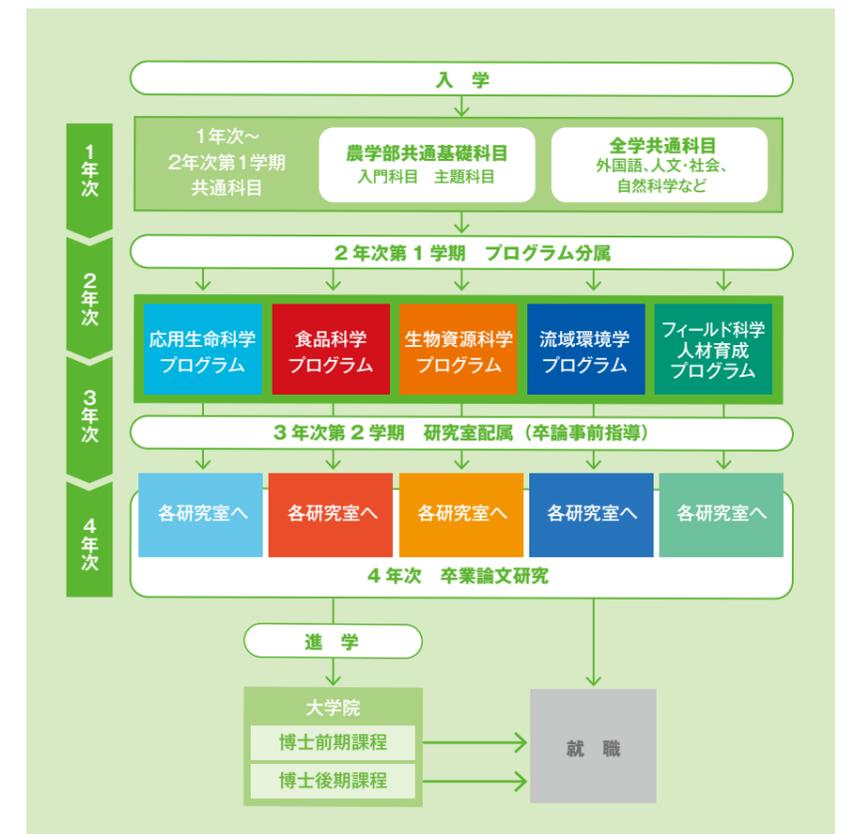
新潟大学農学部では、農学科の中に5つの学位プログラム「応用生命科学プログラム」・「食品科学プログラム」・「生物資源科学プログラム」・「流域環境学プログラム」・「フィールド科学人材育成プログラム」を設けて専門的な教育を行い、地域や社会が抱える諸問題を多角的視点から総合的に理解し、具体的な解決策を提言できる構想力・リーダーシップ力・高い倫理観をあわせ持ち、我が国のみならず広く世界で活躍できる人材を養成します。

入学後、専門教育を受けるために必要な語学、自然系共通専門基礎、情報リテラシー等の基礎科目、幅広い知識を身につけるための人文社会・教育科学、自然科学等に関する教養科目を履修します。同時に、農学に関わる基本的知識を修得するために「農学入門」等の農学部共通基礎科目を受講します。

その後、2年次第1学期から5つの学位プログラムに分かれ、各分野における専門的な教育を受けます。学位プログラムには、食品分野に関する教育研究に特化した「食品科学プログラム」、農学分野の教育研究の柱である「生命」・「食料」・「環境」に明確に対応した「応用生命科学プログラム」・「生物資源科学プログラム」・「流域環境学プログラム」、環境保全や災害・復興対策等の諸問題を解決できる実践力を備えた人材の育成を目的として理学部と連携した「フィールド科学人材育成プログラム」があります。なお、分属先は、本人の志望と成績により決定します。さらに、3年次第2学期以降、卒業論文指導予定教員を決定し、4年次の1年間卒業論文研究を行います。



## 入学後のスケジュール



# 新潟大学農学部 2026年度 学部案内

学部長あいさつ ..... 01

新潟から世界へ ..... 02

### 学位プログラム

応用生命科学プログラム ..... 03

食品科学プログラム ..... 05

生物資源科学プログラム ..... 07

流域環境学プログラム ..... 09

フィールド科学人材育成プログラム ..... 11

フィールド科学教育研究センター ..... 13

入試情報 ..... 14

アクセス ..... 15



### アドミッションポリシー

化学と生物学を基盤とした最新のバイオサイエンス・バイオテクノロジー・ゲノムサイエンス等、微生物・植物・動物の生命現象とその応用に関する高度な専門知識と実験技術の修得に強い関心のある人を歓迎します!

# 応用生命科学プログラム

Applied Life Science Program

**実践的技術を学ぶ科目**  
有機化学実験  
分析化学実験  
生物化学実験  
生物学実験  
微生物学実験

特色ある授業科目

**応用および実用的知識を学ぶ科目**  
醸造学  
肥料学  
遺伝子工学  
化粧品科学  
植物栄養生理学  
機器分析学

**専門基礎科目**

有機化学  
分析化学  
生物化学  
微生物学  
土壌学概論



分析化学実験 実験風景



先端機器を使用した研究風景

### 取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状(農業)
  - 食品衛生管理者(※1)任用資格
  - 食品衛生監視員(※2)任用資格
  - 危険物取扱者(甲種)(※3)受験資格
- (※1)食品製造に関わる事業所、(※2)食品衛生に関する業務を行う検疫所(厚生労働省)・保健所(各自治体)・技術系公務員、(※3)研究所・化学工場・貯蔵施設で必要とされる資格です。

### 卒業後の進路

一般企業:富士フィルム和光純薬、フナコシ、資生堂、高砂香料、ニプロファーマ、ファン

ケル、岩瀬コスファ、関東化学、日本ジェネリック、クラレ、マツモト交商、トキワ、オルビス、カネカ、カネコ種苗、愛三種苗、キュービー、マルハニチロ、理研ピタミン、八海醸造、朝日酒造、山崎製パン、ソントン食品工業、昭和産業、リファインバースグループ、亀田製菓、ブルボン、日東ベスト、一正蒲鉾、タケショー、新潟県農業共済組合、三幸製菓等

公務員:環境省、農研機構、国土交通省、農林水産省、検疫所、警察庁、新潟県、群馬県、福島県、宮城県、山形県、富山県、新潟市、横浜市等

大学教員:新潟大学、茨城大学、東京農工大学、秋田県立大学、石川県立大学等

### 先輩からのメッセージ

高校生の頃にただ「実験ってカッコいい!」と思って理系を選択し、当時思い描いていた研究生生活を送れそうな応用生命科学プログラムに進学しました。しかし、講義で幅広い専門知識を学び、学生実験で基礎的な実験手法を身に付ける中で、いろいろな研究をしている先生や先輩に出会い、自分が突き詰めてみたいと思った分野を見つけることができました。

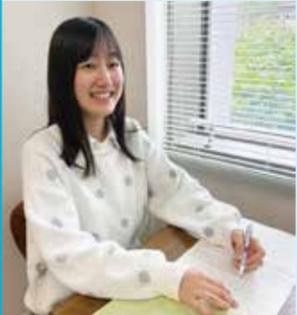
現在所属している植物細胞工学研究室では、ホトトギス属植物の開花関連遺伝子の機能解析をテーマに研究しています。思ったような結果が出ないこともありますが、先生方や先輩方にアドバイスをもらいながら日々解決策を模索しています。みなさんも本プログラムで充実した研究生生活を送ってませんか。



新潟大学大学院 自然科学研究科 博士前期課程2年 菊池 麦

私は植物や化学の研究に興味があり、植物栄養や有機化学などを学ぶことができる応用生命科学プログラムを選択しました。ここでは、幅広い分野の講義と学生実験を通して、研究に必要な知識を身に付けることができます。その中で、まだ興味のある分野が分からないという人も、自分の研究してみたい分野を見つけられるはずです。

3年後半からは研究室に配属され、学んだことを生かして実際に自分で研究を行うことになります。日々、興味のある分野について学ぶことが楽しいです。ぜひ皆さんも本プログラムと一緒に学びませんか。



農学部4年 五十嵐 利果

## 基礎から応用、実用まで生命科学を幅広く学べます!

もっと知りたいときは >>

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/ouyou-seimei>



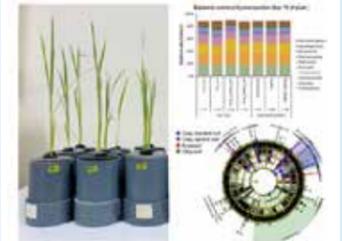
### プログラムの特色

応用生命科学とは、微生物、植物、動物等を研究対象として、遺伝子、タンパク質、生理活性物質等、生体分子および細胞の構造/機能、生物のしくみについて先端機器を使った高度な化学分析やバイオテクノロジー、ゲノムサイエンスの手法を駆使した研究を行い、これを応用して新しい機能物質の生産や生物機能の改変を行う学問です。確かな分析能力、高度な解析技術および論理的な思考を鍛える事により、現代的諸問題を科学的な手法により解決する能力を涵養します。また、実践的科目群により専門的な情報収集・プレゼンテーションのスキルを修得します。農林畜産物の生産利用・食品・環境・農業・医薬品等について、日常生活に関連の深い生物・化学関連の研究、技術開発、教育等に携わる人材を養成します。

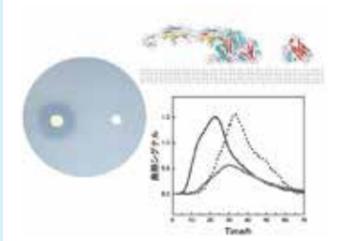
### 特色ある研究



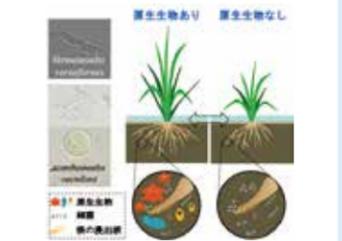
遺伝子組換えによる葉色の改変



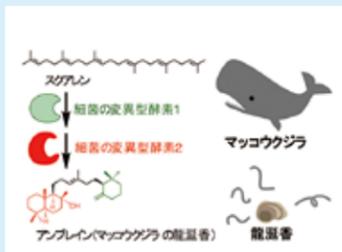
環境 DNA を利用した植物・微生物間相互作用の解明



遺伝子から細胞レベルの解析で明らかにする、細菌がキチンを分解する仕組み



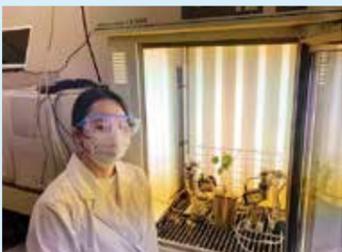
イネにおける捕食性原生生物の影響



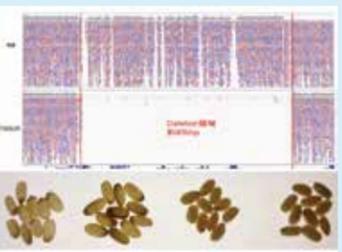
新規・希少生理活性物質の探索、生合成による創出および生物合成



植物バイオマスのバイオリファインリーによるファインケミカルの創製



環境要因がダイズの窒素固定活性に及ぼす影響をリアルタイムに解析



代謝学による新奇物性を持つデンプンの開発



### アドミッションポリシー

現代の食品に求められる栄養価、美味しさ、健康など多様な機能を理解できる化学や生物の基礎学力を持ち、食品成分の化学的基礎から、食品の開発・製造・販売まで食に関する幅広い分野に強い関心のある人を歓迎します！

# 食品科学プログラム

## Food Science Program



実地見学で食の安全管理を学ぶ

美味しさの評価

無菌操作（細胞培養実験）

### 取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（農業）
  - 食品衛生管理者（※1）任用資格
  - 食品衛生監視員（※2）任用資格
  - 危険物取扱者（甲種）（※3）
- （※1）食品製造に関わる事業所、（※2）食品衛生に関する業務を行う検疫所（厚生労働省）・保健所（各自治体）・技術系公務員、（※3）研究所・化学工場・貯蔵施設で必要とされる資格です。

### 卒業後の進路

一般企業：朝日酒造、越後製菓、亀田製菓、キュービー、サトウ食品、昭和産業、タカナシ乳業、タケショー、塚田牛乳、東洋水産、

ニッカウキスキー、日清製粉グループ本社、日本製粉、日本ハムファクトリー、ハウス食品、ブルボン、マルハニチロ、山崎製パン、理研ビタミン 等  
**法人・団体**：農業・食品産業技術総合研究機構、全国農業協同組合連合会、日本食肉格付協会 等  
**公務員**：検疫所（厚生労働省）、新潟県、青森県、秋田県、東京都、福島県、山形県、新潟市、仙台市、長野市、横浜市 等  
**大学院**：新潟大学、東京大学、お茶の水女子大学、東京農工大学 等  
 （前身の応用生物化学科食品・栄養科学コース、大学院博士前期課程修了者も含む）

### 先輩からのメッセージ

“食”全般に関して幅広く学べる点に強く惹かれ、私は大学入学時から食品科学プログラムを志望していました。講義では食品の栄養や機能性、加工、微生物に至るまで幅広く学べ、さらに、学生実験では卒業研究に必要な基礎技術をしっかりと身につけることが出来ます。また、実際に食品工場へ行って学ぶ機会があることも魅力の一つです。私はオーストラリアへの海外留学も経験しており、忙しくも、楽しく充実した大学生活を送っています。“食”について深く学ぶための環境が整った本プログラムで、皆さんもぜひ一緒に学びましょう。



農学部 4年 木本 帆香

充実した講義、実験・実習により「食の専門家」を育てます！

もっと知りたいときは ≫

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/shokuhin-kagaku>

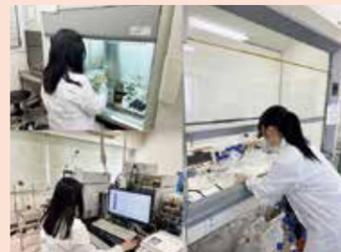


### プログラムの特色

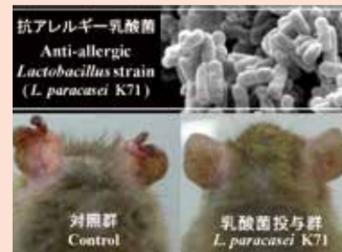
1,000社を超える食品関連企業を有する新潟は、食品産業が非常に盛んです。新潟大学は食品研究機関や企業等との連携が活発で、見学、インターンシップ、技術者による講義の機会が充実！「食品」の栄養価、化学的特性、美味しさや健康、その評価法に関する基礎を学びます。また、他学部や公的機関、民間企業との共同研究や交流が活発です。充実した講義科目に加えて、実験・実習、卒業研究等で高度な技術や考え方が身につくため、卒業生の評価が高いのが特徴です。



### 特色ある研究



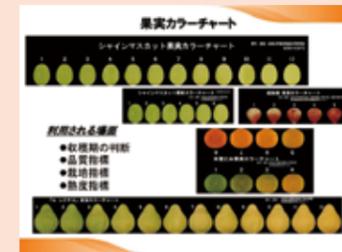
機能性糖質の創生



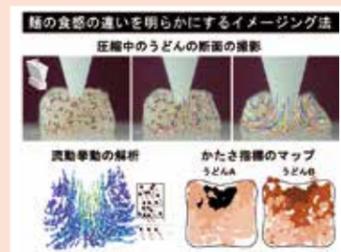
抗アレルギー乳酸菌  
Anti-allergic  
*Lactobacillus* strain  
(*L. paracasei* K71)  
対照群 Control 乳酸菌投与群 *L. paracasei* K71



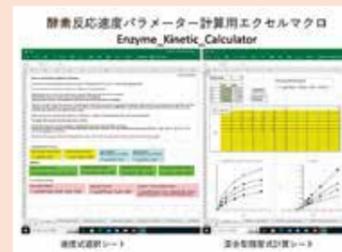
食品やその成分の機能性探索



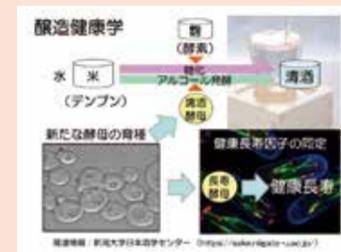
食品・農産物の外観品質評価のための果実カラーチャート



食感の新たな計測法の開発



酵素反応速度解析プログラムの開発



醸造健康学：酵母を用いた日本酒醸造・健康長寿の研究



おにぎりの安全性に関する研究

受験生のみならず、「食べる」ことは好きですか？ もちろん好きですよね？ 大丈夫です、その気持ちがあるだけでいいんです。この写真を見ていただければ分かるように、私はわんこそばを1人で150杯平らげてしまうほど、「食べる」ことが好きで、その気持ちを強く抱いて入学しました。ココ、食品科学プログラムでは「食」に興味があればあるほど、充実したキャンパスライフを送ることができます。みなさんの知らない「食」の魅力はまだあります。それを学べるのがこのプログラムです。さあ、その君、食品科学プログラムに入る決意はつきましたか？

新潟大学大学院  
自然科学研究科  
博士前期課程 2年  
伊藤 乃聖





**食料・資源経済学分野**  
 食料資源経済学  
 国際フードシステム論  
 農業経営学  
 農産物流通論



**植物資源科学分野**  
 作物学  
 果樹・蔬菜園芸学  
 植物遺伝学  
 植物病理学

**動物資源科学分野**  
 動物解剖生理学  
 動物遺伝学  
 動物発生生殖学  
 草地生態学

特色ある  
授業科目



栽培実習（リーフレタスの収穫）



乳汁中のホルモン測定実験



家畜飼養管理実習

**アドミッションポリシー**

動植物の遺伝子から個体を取り巻く環境までを理解し、生物資源の利活用におけるバイオテクノロジーや先進的技術の開発と応用に挑戦する意思を持ち、さらに国際的視点を持ちながら食料生産や農山村地域の持続的発展に強い関心のある人を歓迎します！

**生物資源科学プログラム**  
 Program of Agriculture and Bioresources

**取得可能な資格**

- 高等学校教諭一種免許状（農業）
- 家畜人工授精師（牛）
- 危険物取扱者（甲種）

**卒業後の進路**

一般企業：アクシアルリテイニング、朝日工業、井関農機、越後製菓、NTTビジネスソリューションズ、カネコ種苗、兼松新東亜食品、興和、コカ・コーラボトラーズジャパン、サカタのタネ、佐藤食品工業、正田醤油、第四北越 FG、富山中央青果、新潟クボタ、日本アイ・ピー・エムデジタルサービス、日本臓器製薬、日本農産工業、日本ハム、ハルナビバレッジ、ブルボン、ヤンマーアグリジャ

パン、雪国まいたけ、横浜冷凍  
 団体・組合：家畜改良センター、JA グループ（全国、県域、単協、関連組織）、土地改良区、日本食肉格付協会、日本草地畜産種子協会、農研機構、農業共済組合  
 公務員等（農業職・行政職・教員等）：秋田県、岩手県、沖縄県、金沢市、群馬県、国土交通省、総務省、東京都、栃木県、富山県、長岡市、新潟県、新潟市、農林水産省、福島県、山形県  
 大学院：岡山大学、沖縄大学、神戸大学、東京農工大学、東北大学、奈良先端科学技術大学、新潟大学、広島大学（前身の農業生産科学科の例、修士修了者も含む）

**先輩からのメッセージ**

生物資源科学プログラムは、学びたいことが明確に決まっている人はもちろん、「農業や生き物に興味はあるけれど、何を学びたいかはまだ決まっていない」という人にもぴったりです。植物・動物・経済という3つの視点から農業について学び、自分の興味のある分野を見つけて、深く学んでいくことができます。私は植物に興味を持ち、現在はダイズ突然変異系統における形質の評価に関する研究を行っています。植物コースでは、実際の栽培や実験を通じて、植物について体験的に学ぶことができ、とても楽しいです。ぜひ、本プログラムと一緒に学びましょう！



新潟大学大学院  
 自然科学研究科  
 博士前期課程1年  
 倉澤 咲也子

私は専門学校で実践的な農業を学んだ後新潟大学農学部へ編入し、農業経済学を学んでいます。編入当初は学習面や人間関係に不安もありましたが、先生方や友人のサポートのおかげですぐに馴染むことができました。農学部といえば実験や実習のイメージが強いかもしれませんが、農業経済学では農村地域などへの調査が中心で、入学してから農学という分野の幅広さを感じました。私は編入生なので単位の取得などいろいろと苦労しましたが、今では日々新しい発見があり、学びの楽しさを実感しています。幅広い視点から農業を学びたい方には新潟大学はピッタリだと思います。



農学部4年  
 三井 遥都

**3つの分野で幅広く学べます！**

もっと知りたいときは >>

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/seibutsu-shigen>



**プログラムの特色**

農畜産物の新しい品種の開発・試験から、生産・普及、流通・加工、消費・循環に至るフードシステムの広大なフィールドを使って、土・稲・畑作物・産業動物等の生物資源の開発や利活用に関する先端的で幅広い知識を学べます。実際に農場を研究の舞台とし、室内のラボだけでは得られない本当の農業を幅広く体験できます！

国際的な視点をもちつつ、全国有数の農業県である新潟の農村に仲間と出かけ、現場の人たちと共に地域の悩みを考えることは、日本や世界の農業農村の持続的発展の方策や食料資源問題の解決策を科学的に考える第一歩となります。

花や果物、野菜、穀物、動物、ウイルスまで、多くの生命現象について学べます。動植物が持つユニークな特徴を明らかにすることは大変ですが、努力の末に得られた成果は大きな喜びをもたらします。

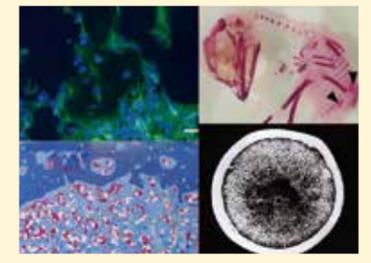
**特色ある研究**



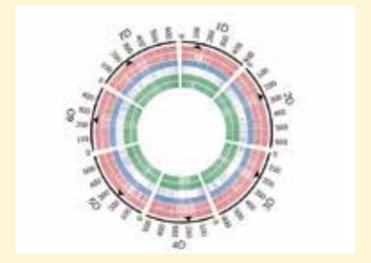
持続可能な農業・農村開発に関する研究（上海市の大規模有機・観光農場の様子）



農業・農村の労働市場問題に関する研究（集落・農家調査の様子）



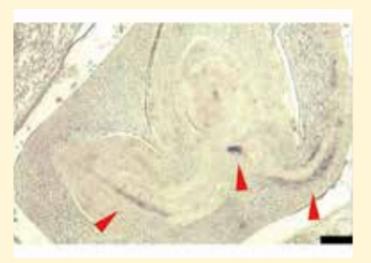
動物の骨代謝に関する研究



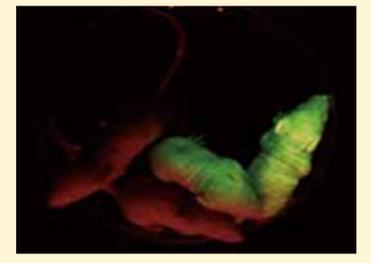
ビッグデータをもとにした生命情報解析



フィールドでの作物栽培



作物の遺伝子に着目した研究



生殖技術を利用した遺伝子改変マウスの作製



ゲノム解析によるトキ野生復帰に関する研究



**持続的森林管理と生態系保全**

フォレスター入門  
林木育種学  
森林保護学  
森林再生学

特色ある  
授業科目

**食料生産の基盤整備**

農環境デザイン入門  
農地と水利用  
土環境工学  
環境材料工学

**情報ネットワークの活用**

食料環境工学  
精密農業工学  
食品・農業情報工学  
バイオマスエネルギー論



**アドミッションポリシー**

河川上流の森林地帯から中山間地を経て下流の平野部に至る流域を対象とし、地域の自然環境と調和した持続的な農林業の生産活動に強い関心のある人を歓迎します！



**流域環境学プログラム**

Program of Environmental Science for Agriculture and Forestry

一次産業と関連分野をそっと支える分野を学びます！



林業現場の見学



土の強さを調べる実験



中越地震の被災集落で行事体験

**取得可能な資格**

- 高等学校教諭一種免許状（農業）
- 自然再生士補
- 森林情報士2級
- GIS学術士
- 樹木医補

**卒業後の進路**

一般企業：鹿島建設、日本工営、本間組、五洋建設、前田建設工業、ネクスコエンジニアリング東北、開発技建、日本サミコン、ヤマハ発動機、新潟クボタ、新潟日报社、

上毛新聞社、第一生命保険、ニチレイフーズ、東京ガス、JTB、TDK ラムダ 等  
公務員・団体：農林水産省、林野庁、国土交通省、新潟県、福島県、富山県、石川県、福井県、群馬県、神奈川県、沖縄県、新潟市、上越市、鶴岡市、川崎市、江戸川区、JA、新潟県土地連、土地改良区 等  
大学院：新潟大学、九州大学、東京農工大学、千葉大学、京都大学 等

**先輩からのメッセージ**

流域環境学プログラムでは、農林業分野について座学だけではなく、フィールドワークや現場見学などの課外授業を通してさまざまな視点から学ぶことができます。現在、私は農業土木分野に関心を持ち、国内外で氾濫予測について研究を行っています。研究室のメンバーとともに調査地を訪れ、現地の人と交流や調査などを行い、研究生生活を楽しく過ごしています。実際の現場での学びや人とのつながりなど多様な経験を得ることができるのもこのプログラムの魅力だと感じています。ぜひ、流域環境学プログラムで、一緒に学びましょう！



新潟大学大学院  
自然科学研究科  
博士前期課程 2年  
金子 貴信

私はフィールドワークがしたいと思い、本プログラムを選択しました。野外実習が多く、学生同士の親睦を深めながら実体験を伴う学びが得られ、とてもおススメです。

私は牛の角突きや錦鯉が有名な長岡市山古志地区で子どもに関する卒業研究に取り組んでいます。現地調査では温かな住民のご厚意に触れ、自分の研究をこの地域の役に立たせたいという思いが沸き立ちます。

外に出るの活動がしたい、地域の魅力に触れてみたい、と思う方はぜひ流域環境学プログラムと一緒に学びましょう！



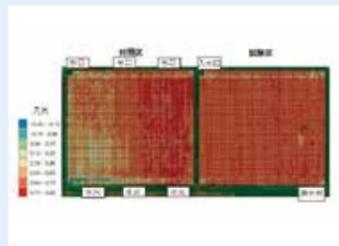
農学部 4年  
本間 丈治

**プログラムの特色**

人と自然の共生を考えることができる、「緑の下の力持ち」になろう。その「力」は、河川上流の森林地帯から中山間地を経て下流の平野部に至る流域を「人の生活」と「資源の循環」の大きなまとまりとしてとらえ、地域の自然環境と調和した持続的な農林業を可能にする力。そのために、持続的な森林管理と生態系の保全、食料生産の基盤整備、および情報ネットワークの活用に関する幅広い専門知識と技術を学修します。



**特色ある研究**



作物生育指標（NDVI）を用いて空から大豆の成長を診る



土砂災害とその防止に関する研究



河川の水生昆虫と森林とのかわりの研究



田んぼダムによる洪水対策の研究



農業用ダムの機能診断に関する研究



解析に使用する現地での森林調査



花粉の出ない無花粉スギの研究



山古志の心につながる研究



生態学に関連した科目

野生植物生態学  
野生動物生態学  
里地里山再生学  
希少生物保全学

特色ある授業科目

災害科学に関連した科目

環境砂防学  
雪氷防災学  
斜面災害論  
河川工学

環境動態に関連した科目

古環境学  
気象解析実習  
海洋化学  
寒冷地形学



野生動植物の生態を体験的に理解する



地質調査法、地形調査法を学ぶ



防災施設の設計技術を学ぶ

アドミッションポリシー

野生動植物の生態や保全、自然環境に配慮した防災・減災対策・災害復興、生態系や自然災害に関わりの深い環境の動態に関する知識や技術の修得と、多様なフィールドでの実践活動に強い関心のある人を歓迎します！

**フィールド科学人材育成プログラム**  
Program of Field Research in the Environmental Sciences

多彩なフィールド科学分野の講義・実習科目を学べます！

もっと知りたいときは >>

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/field-jinzai>



プログラムの特色

理学部と農学部の教員が協働で講義や実習を担当する学部横断型プログラムです。理学分野における基礎科学的な講義・実習と、農学分野における応用科学的な講義・実習を同時に学べます。豊富な科目群の学修やフィールドでの実習体験を通して、野外の様々な場面での問題解決に必要な科学的知識と実践的な技術を身につけます。佐渡自然共生科学センター、災害・復興科学研究所との協働体制をとることで、生物や環境の長期調査・モニタリングを実施できる機会を提供し、より実践的な研究を行います。

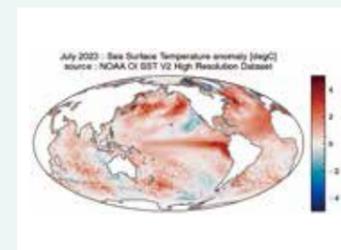
特色ある研究



森林における多様な樹木の生態の解明



陸域生態系における温室効果ガス動態の解明



異常気象・海洋現象のメカニズムの探究



地質調査自動化に向けた研究



里地里山の自然再生に関する研究



植物の目に見えない遺伝的特徴を明らかにする



山岳地域で発生している現象の解明



激化しつつある土砂災害の被害軽減に関する研究

先輩からのメッセージ

このプログラムでは、教室から飛び出し、野外のフィールドで分野横断的に多角的なアプローチで自然環境について学ぶことができます。私は野生植物生態学研究室に所属し、佐渡自然共生科学センター演習林を調査フィールドに植物由来の環境 DNA について研究しています。ミクロな DNA からマクロな環境まで多様な自然の声を聴く毎日は刺激的です。汗をかいてデータを集め、解析し、仲間や教員と議論を重ねるたびに発見とワクワクが広がります。未知の自然

が待つフィールドへ、次はあなたの番です！  
一歩踏み出してみませんか？



新潟大学大学院  
自然科学研究科  
博士前期課程1年  
宮崎 悠聡

このプログラムは、気象学、生態学、防災学、人文学など幅広い分野の学問を学ぶことができます。実習授業が多く、自然が好きな私にとっては、どの実習も非常に楽しいです。また、教員数も多いため、様々な研究室を選べるのも魅力の一つです。現在私は、災害・復興科学研究所の雪氷学研究室に所属しています。雪の観測やデータ解析に取り組み、充実した日々を送っています。まさか自分が雪を研究対象にするとは思っていませんでしたが、これは、分野横断を実現しているこのプログラムを選んだからこそだと思います。自分の視野や可能性が広がる非常に魅力的なプログラムです。

農学部 4年  
船木 明日奈



# フィールド科学教育研究センター

## データ駆動型大学附属農場への転換を図り、 農業のデジタルトランスフォーメーション (DX) の共創拠点となる

当センターは企画交流担当および耕地生産担当から構成され、農学部と緊密に連携した教育・研究活動、地域貢献を推進しています。令和4年3月30日、新潟大学は「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」(文部科学省)に採択され、同年4月1日より「フィールドを舞台に農業DXをけん引する高度農業人材育成プログラム」を開始しました。スマート田植機、日本に1台の土壌分析装置、最先端のロボットトラクタ、温室効果ガスのモニタリングシステムなど高度なDX機器を大学附属農場に導入しました。現在は、これらのDX機器を農学部の教育と研究にフル活用して、データサイエンティストの資質を備えた高度農業人材の育成を推進しています。さらに、農業DXに関する産業界等と共創拠点を村松ステーションに形成することに努め、地域の課題解決を図ります。

### 企画交流担当

農業生産と環境保全に関する教育・研究を推進するために、総合的なプログラムおよびプロジェクトを企画調整しています。特に、地域特有の農業・環境問題を積極的に汲み上げ、農学部と地域社会との交流窓口として情報の収集・管理・発信を行っています。



農学部 FC シンポジウムの開催



五泉市との連携事業 菜の花畑作り

### 耕地生産担当

#### 【概要】

耕地生産担当には村松ステーションと新通ステーションの2つのステーションがあり、それぞれ五泉市(旧村松町、新潟大学から45km)、新潟市西区新通(新潟大学から3km)に所在しています。村松ステーションは16haの圃場を有し、食用作物(ダイズ、ジャガイモ)、野菜類(サツマイモ、スイカ、エダマメ、ダイコン)および牧草を作付け、乳牛やヤギを飼育しています。新通ステーションは2.7haの圃場を有し、水稻を中心に作付けし、転作作物としてタマネギ、エダマメ、ソラマメ、トマト、ナスなどの野菜を栽培しています。また、春季には草花やハーブの苗生産も行っています。



農業用ドローンの実演飛行(村松ステーション)



搾乳実習(村松ステーション)



可変施肥田植機による水稻機械移植(新通ステーション)



水稻機械収穫(新通ステーション)

#### 【教育・研究】

基礎的な農作業体験を目的として、農学部全学生の必修科目である「基礎農学実習」を両ステーションで開講しています。また、植物生産学・動物生産学・生物生産機械学を専攻する学生の専門的な実習も開講しています。耕地生産担当では、播種から収穫まで、また出産から牛乳生産までの農業生産の全過程を対象にして、環境負荷の少ない持続的農業に関する研究を行っています。村松ステーションでは、農業機械利用による省力生産技術、耕種と畜産での資源循環、資源循環型酪農における乳牛の生産性および繁殖成績について研究しています。新通ステーションでは、気候変動に対応できる水稻新品種の開発、環境に配慮した野菜栽培技術について研究しています。令和4年度より、デジタル技術を活用した先進的な農業機械、計測機器を導入し、データ駆動型大学附属農場への転換を図りながら、農業DX(デジタルトランスフォーメーション)への取り組みを推進しています。

#### 【地域連携・社会貢献】

村松ステーションでは、五泉市と連携して、地域中学校の農場実習や児童・園児の農場見学などを受入れているほか、学校給食用野菜を提供しています。新通ステーションでは、園児の農業体験を毎年開催しています。また、大学院における教育プロジェクトの一環として、地元の酒造会社と連携し、新通ステーションで栽培した酒米を原料とする大学ブランドの日本酒「新雪物語」を造っています。他に、生産物の販売を通して地域との交流を行っています。

# 入試情報

## 【募集人員】

学部	学科	入学定員	募集人員				
			一般選抜		学校推薦型選抜	帰国生徒	社会人
			前期日程	後期日程			
農学部	農学科	175人	111人	30人	34人	若干人	-

## 【募集方法】

一般選抜では、農学科で一括して募集します。学位プログラムは、2年次進級時に決定します。学校推薦型選抜I型では、学位プログラムごとに募集し、合格者を決定します。フィールド科学人材育成プログラムの募集は行いません。学校推薦型選抜II型では、農学科で一括して募集します。学位プログラムは2年次進級時に決定します。

学部	学位プログラム	募集人員			
		前期日程	後期日程	学校推薦型選抜	
				I型	II型
農学科	応用生命科学	111人	30人	2人	21人
	食品科学			2人	
	生物資源科学			5人	
	流域環境学			4人	
	フィールド科学人材育成			-	

## 【一般選抜】

区分	大学入学共通テストの利用教科・科目			区分	個別学力検査		
	教科	科目名等	必須		教科等	科目名等	必須
前期・後期	【国】	国語	必須	前期	【数】	数I・数II・数A・数B・数C	【数】【理】から2
	【数】	「数I、数A」「数II、数B、数C」	必須		【理】	物基・物、化基・化、生基・生、地基・地学から1又は2	
	【理】	物理、化学、生物、地学	左記から2			【外】	英(英語コミュニケーションI~III・論理・表現I~III)
	【外】	英、独、仏、中、韓	左記から1	後期	【その他】		面接
	【地歴・公民】※1	「地総、地探」、「歴総、日探」、「歴総、世探」、「地総、歴総、公」、「公、倫」、「公、政・経」	左記から1				
【情】	情報I	必須					
(6教科8科目)							

※1「地理総合、歴史総合、公民」を選択する場合は、3つの出題範囲(「地理総合」、「歴史総合」、「公民」)のうち、2つを選択解答すること。

## 【学校推薦型選抜】

1. 募集・選抜方法及び配点 学校推薦型選抜I型では、学位プログラムごとに募集します。フィールド科学人材育成プログラムの募集は行いません。学校推薦型選抜II型では、農学科で一括して募集します。学位プログラムは2年次進級時に決定します。

学科名	学位プログラム	募集人員	大学入学共通テスト			本学が実施する試験			合計		
			教科	科目	配点	小論文	面接	書類審査			
農学科	I型	応用生命科学	-	課さない	-	50	30	20	100		
		食品科学									
		生物資源科学									
		流域環境学									
農学科	II型	21	【数】	「数I、数A」「数II、数B、数C」	【数】【情】から1	200	-	120	80	800	
			【情】	情報I	【理】						物理、化学、生物、地学
			【理】	左記から1	【外】						英語
			【外】	必須	200						

## 2. 出願要件

学科名	学位プログラム	高等学校の範囲等	概ねの募集人員	
農学科	I型	応用生命科学	農業、工業、水産及び家庭に関する学科並びに総合学科(注1、2)	2人
		食品科学	農業、水産及び家庭に関する学科並びに総合学科(注1、3)	2人
		生物資源科学	農業に関する学科及び総合学科(注4)	5人
		流域環境学	農業及び工業に関する学科並びに総合学科(注5)	4人
	II型	農学科一括 応用生命科学 食品科学 生物資源科学 流域環境学 フィールド科学人材育成	高等学校の普通科等	21人

(注1) 家庭に関する学科は、食物に関する教科・科目を20単位以上修得(見込みを含む。)した者を対象とします。  
 (注2) 総合学科は、農業、工業、水産又は食物に関する教科・科目をいずれか20単位以上修得(見込みを含む。)した者を対象とします。  
 (注3) 総合学科は、農業、水産又は食物に関する教科・科目をいずれか20単位以上修得(見込みを含む。)した者を対象とします。  
 (注4) 総合学科は、農業に関する教科・科目を20単位以上修得(見込みを含む。)した者を対象とします。  
 (注5) 総合学科は、農業及び工業に関する教科・科目を20単位以上修得(見込みを含む。)した者を対象とします。